

課題対応取組み報告書

名称	加賀屋・粉浜地域包括支援センター				
提出日	令和6	年	6	月	20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	気軽に相談できる場や孤立しない繋がりづくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症状やA D Lの低下により、地域との関係が希薄になっており、顕在化した時には課題が複雑化、深刻化している。 地域とのつながりがなく、当事者、地域との関係性が悪く共助の関係を構築できない。	
対象	地域住民	
地域特性	古くからの長屋も多く、隣近所の声掛けができていた地域がある一方、集合住宅においては近隣との関りが希薄化している。 高齢化率は加賀屋地域29.9%、加賀屋東地域32.7%、粉浜地域32.0% (令和4年3月31日住民基本台帳) と年々上昇している。	
活動目標	・地域包括支援センター (以下「包括」) 広報誌や、町会回覧、掲示板ヘチランの配布等で、地域住民へ、包括の周知を行う。 ・地域住民同士がつながりを持ち、見守り・見守られる関係を構築できる。	
活動内容 (具体的取組み)	・毎月スーパーの一角を借り、出前相談会を開催するとともに、気軽に相談できる場所として、包括、総合相談窓口 (ランチ) (以下「ランチ」という) の周知活動を行う。 ・地域活動への参加を継続し、地域住民と顔の見える関係性を構築し、「ちょっと気になる」時点で、相談をしていただける関係性を構築する。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・令和4年度における地域活動への参加は74回であったが、令和5年度は108回であり34回の増加とともに、地域活動の場で気軽に相談を受けることができた。 ・U R 住吉団地においては令和4年度にイベント開催2回であったが、令和5年度は参加、主催、共催を含め20回の地域活動やイベントがあり、包括の周知とともにボランティアの方を含め地域住民との横のつながりの構築の一角を担うことができた。	
今後の課題	・集合住宅における高齢化に伴う住民同士の関係の希薄さは、町会脱離地域の増加により、圏域内の多くの住宅において今後も懸念される課題である。 ・活動への参加の継続を行い、昨年度の成果をさらに深化させるとともに、その一方で地域との関りを積極的に持たず、生活を送っている住民に対する周知やアプローチの方法を検討し対応する必要がある。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月18日 (木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	・商店街からスーパー、スーパーからU R と介入しており、住民がつながる場を増やしている。いい動きをしている。URは元々住民達で会を作っており介入しにくい状況だったが、介入できている。 ・よく継続している。評価・人の目は気にしないでよい、一人でも寄り添うことができればよいのではないか。	